7. 予防援助（指導援助）の経過

予防援助は，１年時より卒業時まで続いた。以下は学年ごとにポイントとなった指導内容である。

〔１年時〕

・　実習準備係に任命し，朝と放課後必ず担任と接触せざるを得ない状況をさりげなくつくり，ラポールが深まるような言葉かけを多くした。

・　６月，プールの金網に向かって奇声とともに竹刀を振り降ろす姿が見受けられた。先輩部員と衝突し，サッカー部をやめたとのことであった。Ａ男の言い分を時間をかけて聴いた。

・　担任との人間関係は良好であったが，教科担任とは時々衝突した。そのつど，Ａ男のむしゃくしゃした気持ちを受け入れ諭すとともに，努めて時間をみつけては教科担任と会い情報交換をした。

・　国家試験について興味を持っていると言うので，目標を持つことの大切さを話したら，在学中の目標を「各種資格取得」に設定した。

１年時……危険物取扱主任者

２年時……ガス溶接士，計算技術検定

３年時……二級ボイラー技士

・　家庭訪問のおりには，父親と姉にＡ男の良さや将来について話した。

≪１年時の反省≫

ＨＲの係もやりとげ，危険物取扱主任者の国家試験にも合格し，無欠席で，生活，成績とも進境著しく，険しい表情は消えてきた。

≪２年時の目標≫

担任とのラポールを更に深めつつ，是々非々の姿勢で接し，協調性や規範性を養う。

〔２年時〕

・　月１回位のペースで大小のトラブルが見られた。むしゃくしゃした時は，つい他人に当たりたくなるものであることを指導援助者の体験を通して話した。Ａ男のわがままに起因すると思われた時には，相談室に呼んで毅然とした態度でしかった。

・　家族ぐるみでつき合ってもらえる友人がＡ男にでき，それが大きな励みとなった。高校生活に入って始めてできた親友であり，Ａ男の喜びは大きかった。

≪２年時の反省≫

試験も苦労のすえ，二つとも合格し学業成績も良好であった。やればできるという自信も深まり，協調性や規範性も出てきた。担任以外の授業でも態度は良好になった。

≪３年時の目標≫

まだＡ男の心の奥深く存在している根本的な人間不信を和らげたい。また，適切な進路指導に当たりたい。

〔３年時〕

・　Ａ男は就職希望だったが地域及び職種については迷っていた。情報を提供しつつ，Ａ男がじっくり将来を考え決定するのを待った。

・　夏休みの終わりころ，現在専攻している建築を生かせる会社で，Ｙ市に就職したいと話してきたが，Ｙ市の企業からの求人はなかった。担任が９月，10月と職業安定所回りをして，やっと二つの会社をあっせんすることができた。11月には，Ａ男の就職も内定し，また国家試験にも合格した。

≪３年時の反省≫

Ａ男の就職について担任が真剣にかかわったことが，Ａ男の人間への信頼感をとり戻させた。

8. 考察

この事例は，３年間クラス替えがなく，しかも担任も持ち上がりで継続的な指導が可能であるという条件を生かし，「父性」的にかかわった例である。要点として以下のことが言える。

(1)　クラス内の重要な役割を与え，きめ細かな指導を繰り返すことによって，責任感，規範性を高め，クラス内に溶け込ませた。

(2)　適切な目標を与え，努力させることで自立心を育てた。

(3)　教師自身が悩んだり，努力したりする一個の人間であることを示し，人間への不信感を和らげた。

(4)　父親の自覚を促し，将来を考えさせた。